

2023 年度 日本臨床検査医学会 第 2 回理事会（理事総会）議事録

日 時：2023 年 7 月 8 日（土）15：00～18：00

開催方法：Zoom ミーティング（ホスト会場：日本臨床検査医学会事務所）

出席：

- ・事務所：大西宏明理事長、〆谷直人会計理事、古川泰司総務理事
 - ・Web：田部陽子副理事長、日高洋、松下一之、吉田博、井上克枝、下正宗、堀田多恵子、矢富裕 各理事
志村浩己、東田修二、伊藤弘康、山崎正晴、大澤春彦 各支部理事、諏訪部章 監事
村上正巳 日本臨床検査振興協議会会長（以上 18 名）
- 欠席：木村 聡、満田年宏、森兼啓太 各理事、高橋聡、柳原克紀 各支部理事、古田耕 監事（以上 6 名）

I 開会、理事長挨拶（大西宏明 理事長）

冒頭、挨拶があり、過半数の理事が出席していることを確認し開催の要件を満たしていることが告げられ理事会（理事総会）を開始した。

吉田博理事が 15 時から 30 分のみ出席可能なため、先に担当の次項報告等がなされた。

1) 編集委員会

和文誌は比較的順調に発刊している。英文誌 LMI は昨年 12 月に創刊第 1 巻第 1 号を、今年 6 月末に第 2 巻第 1 号を出版した。今後は原則として 3 か月に 1 回ずつ発刊予定である。

第 70 回学術集会では、編集委員会と国際委員会で委員会合同企画として、テーマ「学会誌の英文版の発刊と学会国際活動（仮題）」を計画していることが報告された。

2) ガイドライン作成委員会

ガイドライン 2024 の作成準備に向けて取り組んでおり、今月中に原稿執筆予定であることが報告された。

3) ICD-11 委員会

第 70 回学術集会で委員会企画を計画していることが報告された。

4) Subspecialty 検討委員

7 月 21 日開催予定の日本専門医機構基本領域連絡協議会に出席し、サブスペシャリティ領域専門医制度の大幅な見直しに関する内容を確認する予定であることが報告された。

5) 機関誌について

英文誌発行について、編集委託先の宇宙堂八木書店より体制を変更して対応する改善案が提出され、しばらくは改善案で進めて一定期間毎に状況確認することとなった。

II 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の 2023～2024 年度の支部例会・総会の開催報告と予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進委員会（矢富裕 担当理事）

2023 年度学術推進プロジェクト採択課題について 15 件の応募があり、審査のうえ 3 採択課題を選出して、理事長報告し持ち回り理事会審議で承認を得たことが報告された。

学術推進プロジェクト採択代表者を学術集会で表彰する提案があり承認され、実際の方法等については委員会で検討することとなった。

2) 臨床検査点数委員会（松下一之 委員長）

委員会名称について臨床検査点数委員会から保険診療委員会（案）へ変更すること、2024 年度診療報酬改定の提案を行ったことが報告された。

3) 標準化委員会（日高洋 担当理事）

C ペプチドの標準化の検討、Lp(a)標準化の検討・Lp(a)標準化用のサンプル収集を行うことについて、浜松医科大学倫理委員会へ倫理申請を行い承認後に残余検体を用いての検討を開始することが報告された。

4) EBLM 委員会（古川泰司総務理事、満田年宏担当理事欠席のため）

第 70 回学術集会において教育セミナー「臨床検査と AI の融合」、臨床検査バンズオンセミナーで PC を用いた「機械学習の導入」に関する演習を企画していることが報告された。

5) 利益相反委員会（山崎正晴 委員長）

2023 年 4 月に日本医学会より「日本医学会診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス 2023」の一部改

定案について意見を求める要望があり、委員会で審議し異論や意見はない旨、回答したこと、「役員等の COI

自己申告書」について各項目の申告限度額表記が一定していないとの指摘を受け、改定案をまとめたことが報告された。

6) 広報委員会（久谷直人 担当理事）

4 月に開催された第 31 回日本医学会総会での分科会広報展示のため、会期中、東京駅丸の内口地下通路に展示予定の学会広報ポスターの提出依頼があり作成したこと、英文誌の広報方法を検討中であることが報告された。

7) 会則改定委員会（久谷直人 担当理事、田部陽子 委員長）

細則の地域活動（支部）に関する改定案および以前の支部規約雛形の改定案を作成したこと、そして支部規約雛形の承認後は、各支部に支部規約雛形に則った支部規約の作成依頼をすることが報告された。

8) チーム医療委員会（田部陽子 担当理事）

パニック値運用に関する提言に問合せがあれば対応していること、パニック値の全国調査について解析予定であること、チーム医療における臨床検査と専門家の役割について検討中であることが報告された。

9) ワークライフバランス委員会（田部陽子 担当理事）

臨床検査専門医取得に関するサポートセンター活動を継続していること、9 月 10 日に第 7 回臨床検査ハンズオンセミナーを Web 開催すること、第 70 回学術集会の委員会企画で「臨床検査医としてどう働き続けるか？」を、講演・総合討論形式で企画していることが報告された。

10) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会（田部陽子 担当理事・委員長）

4 月 22 日の第 12 回特別例会で、シンポジウム「ビッグデータとしての臨床検査情報」を開催したこと、第 70 回学術集会で委員会企画「臨床検査と人工知能を利用した医療機器プログラム開発と医療機器認証」を開催予定であることが報告された。

11) HL7(r)FHIR(r) 日本実装検討 WG について（田部陽子 担当理事）

臨床検査値の標準化に向け連携を進めるため、HL7RFHIRR 日本実装検討 WG に、臨床検査専門医、臨床検査技師が当学会から参加予定であることが報告された。

12) 地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会（古川泰司総務理事、森兼啓太担当理事欠席のため）

臨床検査医の地理的分布や施設種および臨床検査分野の地域医療貢献について検討していることが報告された。

遺伝子委員会松下一之担当理事より、LDT 評価ワーキングについての活動について言及があった。遺伝子委員会から提案された LDT の定義について、日本臨床検査振興協議会の委員会で検討している状況であると大西理事長より回答がなされた。

3. 第 69 回学術集会報告（宇都宮 2022/11/17(木)～11/20(日)、山田俊幸 会長）（古川泰司 総務理事）

2022 年 11 月 17 日（木）～20 日（日）に、栃木県総合文化センター、宇都宮東武ホテルグランデにおいて、山田俊幸会長（自治医大）のもと、メインテーマ：「地域社会に貢献する臨床検査」として開催された第 69 回

学術集会より会計報告があり、収支差額の約 210 万円が当学会へ送金されたことが報告された

4. 第 70 回学術集会報告（長崎 2023/11/16(木)～11/19 (日)、柳原克紀 会長）（古川泰司 総務理事）

2023 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）に、出島メッセ長崎（長崎）において、柳原克紀会長（長崎大）、副大会長：谷川寛雄先生、木村由美子先生、事務局長：佐々木大輔先生、運営事務局：（株）コンベンションリンクエージが担当し、「未来を見据えた臨床検査～次なるステージへの課題と挑戦～」をテーマとして開催予定であること、ホームページが開設されたこと、5 月 12 日（金）～7 月 7 日（金）に一般演題登録募集されたこと、現時点の日程表が報告された。

5. 第 71 回学術集会報告（大阪 2024/11/28(木)～12/1 (日)、日野雅之 会長）（古川泰司 総務理事）

2024 年 11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）において、日野雅之会長（大阪公立大）のもと「臨床検査学の魅力と多様性にせまる」をメインテーマとして開催予定であり、事務局長：中前美佳先生（大阪公立大）、運営事務局：（株）サンプルネットメディカルコンベンションが担当することが報告された。

6. 第 72 回学術集会報告（千葉 2025/8/28(木)～8/31 (日)、大西宏明 会長）

2025 年 8 月 28 日（木）～31 日（日）、千葉県幕張メッセにおいて、大西宏明会長（杏林大）のもと開催予定であり、運営事務局は（株）サンプルネットメディカルコンベンションが予定であることが報告された。ただ、開催時期が 8 月下旬であるため、演題募集、各賞の受賞候補者の募集、評議員、名誉会員、功労会員候補者推薦時期の繰り上げなど、事前に対処していく必要があるため、理解、協力依頼がなされた。

7. 第 12 回特別例会報告（東京 2023/4/22(土)、古川泰司 特別例会長）

2023 年 4 月 22 日（土）、大手町サンケイプラザホールにおいて、第 31 回日本医学会総会に合わせ日本医学会分科会として第 12 回特別例会（第 78 回関東・甲信越支部例会を兼ねる）を、古川泰司特別例会長（帝京大）が、「臨床検査の未来を担う基盤と人～SDGs 3, 8, 9～」をテーマとして、2 シンポジウム、1 特別講演、特別例会長講演、ランチョンセミナーを現地開催し、また、4 月 27 日(木)～5 月 31 日(水)にオンデマンド配信し、現地参加者:59 名、オンデマンド配信視聴者:151 名、合計:210 名であったことが報告された。

8. 関連団体報告（大西宏明 理事長）

1) 日本臨床検査専門医会報告（〆谷直人 日本臨床検査専門医会 理事長）

法人化に伴い会期が 4 月-翌年 3 月となったこと、2022 年度事業報告として会議、年次大会、セミナー等、2023 年度事業計画として理事会、総会、6 月 23-24 日に東京で開催された第 2 回年次大会、7 月に臨床検査振興セミナー、11 月に全国検査と健康展、臨時社員総会、講演会を、2024 年 3 月に理事会を予定していること、そして 2023・2024 年度役員体制が報告された。

2) 日本臨床検査同学院（〆谷直人 日本臨床検査同学院 副理事長）

2022 年度の一級臨床検査士資格認定試験、二級・緊急臨床検査士資格認定試験、遺伝子分析科学認定士資格認定試験、POCT 測定認定士資格認定試験の予定と結果、第 38 回「緒方富雄賞」として藤巻慎一氏（東北大）が受賞したこと、現在、第 39 回「緒方富雄賞」の推薦を受付中であること、第 70 回日本臨床検査医学会学術集会で共催シンポジウムとして「臨床検査技師の資格認定試験を考える」を企画していることが報告された。

3) 日本臨床検査標準協議会（古川泰司 日本臨床検査標準協議会 理事）

令和 5 年度事業計画（2023/4/1～2024/3/31）、各種委員会活動の推進、JCCLS/JACRI 標準化事業、厚生労働省及び経済産業省との関係強化、小規模検査施設の外部精度管理調査事業の推進、経産省再委託事業 ISO/TC212 活動、6 月開催の令和 5 年度学術集会/JCCLS シンポジウム、7 月-10 月末発行予定の会誌 38 巻 1 号、JIS Q 17034：2018（選択肢 A 適用）に基づく標準物質生産者等が報告された。

4) 日本医療検査科学会（〆谷直人 日本医療検査科学会 理事）

各種会議予定（理事会、委員会、社員総会、総会）、2023 年 4 月 16 日（日）に第 37 回春季セミナー（藤巻慎一例会長：東北大）を東北大学で開催したこと、2023 年 10 月 6-8 日（金-日）に第 55 回大会（同時開催：

展示会 JACLaS EXPO 2023) (高橋聡大会長:札幌医大)をパシフィコ横浜で開催予定であること、各種委員会活動、医療検査と自動化(日本医療検査科学会誌 48 巻 1~5 号)、補冊(科学技術委員会)1巻を発行予定であることが報告された。

5) 日本臨床検査振興協議会(村上正巳 臨床検査振興協議会 理事長)

2022年4月1日付で一般社団法人化し、団体名を臨床検査振興協議会から日本臨床検査振興協議会に名称変更したこと、役員体制、委員会(診療報酬改定小委員会、診療報酬制度小委員会、在宅医療における臨床検査に関する小委員会、遺伝子関連検査に関する小委員会、感染症対策に関する小委員会、大規模災害対策委員会、広報委員会)活動予定について報告された。

9. 本学会からの関連団体派遣委員について(更新)(大西宏明 理事長)

2023年3月26日の前回理事会以降に推薦した関連学会、団体への派遣委員が報告された。

10. 認定試験について(大西宏明 理事長)

1) 第3回機構専門医・第40回臨床検査専門医認定試験(東京 2023/8/6(日))(古川泰司 実行委員長)

2023年8月6日(日)に、帝京大学医学部板橋キャンパスにて実施予定であること、学会初回受験者6名、機構専門医受験者8名、再試験受験者(科目受験)2名、合計16名が受験予定であることが報告された。

2) 第15回臨床検査管理医講習・認定試験(東京 2023/8/6(日)、山田俊幸 実行委員長)(古川泰司 総務理事)

2023年8月6日(日)に、帝京大学医学部板橋キャンパスにて実施予定であり、受験者30名が受験予定であることが報告された。

11. 第17回アジア臨床病理・臨床検査医学会報告(神戸 2022/10/7(金)~10/9(日)宮地勇人会長)(古川泰司 総務理事)

2022年10月7日(金)~9日(日)に、神戸国際会議場(一部オンライン参加)において、宮地勇人会長のもと、テーマ「SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標」として開催された第17回アジア臨床検査医学会より開催後報告がなされた。

参加数は、国内:110名、海外8か国:113名、合計:223名あり、アジア各国との国際交流・情報交換を行い、臨床検査の良質な実践を通して地域内外の健康と医療・福祉に貢献できた。

会計報告があり当学会から200万円をアジア交流基金より補助をしていたところ約71万円の返戻金があった。

12. 第32回世界病理学・臨床検査医学会議(サンパウロ 2023/9/5(火)~9/8(金))(村上正巳 WASPaLM 前会長)

2023年9月5日(火)~9月8日(金)、ブラジル、サンパウロで第32回 WASPaLM が開催予定であり、当学会からシンポジウム「The health check up system of Japan and the role of clinical pathologists」を企画して3名の演(右田王介、下澤達雄、村上正巳 各先生)者が参加予定であることが報告された。

13. その他

・第73回学術集会(2026年)会長の推薦について(大西宏明 理事長)

2026年に開催する第73回学術集会の会長について、北海道支部、関東・甲信越支部(東京所属者を除く)、中国・四国支部に推薦依頼しているが、立候補者推薦は、候補者の所信表明と支部長の推薦書(A4用紙1枚程度)を、9月22日までに学会事務局まで提出することを再確認した。

・委員会内での協議、議論、情報共有などのメールのやり取りについて

学会事務局はメール件数が多いため、委員会内部等での協議、情報共有等のメールのやり取りについて、最終的に必要な内容以外は、メールのCcに学会事務局は入れないよう依頼がなされた。

・機関誌印刷での1ページあたりの印刷費用値上げについて

紙代の値上げがあり機関誌印刷費用が値上げされることが報告された。

Ⅲ 審議事項

1. 臨床検査点数委員会の「保険診療委員会」への委員会名称変更について（大西宏明 理事長）

臨床検査点数委員会から「保険診療委員会」への変更の提案があり承認された。

2. 教育委員会・遺伝子関連検査認定医・専門医ワーキンググループについて（大西宏明 理事長、田部陽子 副理事長）

遺伝子関連検査認定医、遺伝子関連検査専門医の認定対象について、遺伝子関連検査認定医は臨床検査専門医、臨床検査管理医を対象とし、遺伝子関連検査専門医は臨床検査専門医のみを対象とする。

そして、遺伝子関連検査認定医認定試験方法については、臨床検査専門医は e-learning 形式試験、臨床検査管理医は現地での試験とする提案があり、承認された。

なお、遺伝子関連検査認定医認定試験受験前に単位取得を必要とする予定であるが、その単位となる教材については学術集会、支部総会、支部例会、関連学会講演会の遺伝子に関する講演等を予定しているため、理事に協力依頼がなされた。

3. COI 自己申告書の役員等の表記変更について（大西宏明 理事長、山崎正晴 利益相反委員会 委員長）

COI 自己申告書の役員等の表記を統一した改定案が提示され、承認された。

4. 選挙管理委員会の設置について（大西宏明 理事長、〆谷直人 選挙管理委員会 委員長）

2024・2025 年度理事、2024～2027 年監事選出のため選挙管理委員会を組織するため、〆谷直人委員長から、委員候補者（下正宗、木村聡、三宅一徳、菊池春人）が提示され、承認された。

5. 支部規約に関する細則の改定について（大西宏明 理事長、会則改定委員会 田部陽子委員長）

当学会細則の支部に関する内容について、支部規約に関する支部独自の会員を設定することができること、支部活動の支部総会・例会の会長は支部会員とすること、他学会と共同開催する際は、支部総会・例会のみの参加費を設定すること、支部長、支部幹事は当学会会員とする改定案が提示され、承認された。

6. 支部規約雛形について（大西宏明 理事長、会則改定委員会 田部陽子委員長、〆谷直人担当理事）

従来の支部規約雛形について、現状に合わせた一部改定案が提示され、承認された。承認されたことにより、各支部に支部規約雛形に則った支部規約の作成依頼がなされる予定である。

7. 臨床検査管理医制度 認定更新制度規程の改定について（大西宏明 理事長）

6 月 16 日に臨床検査専門医・管理医審議会で協議のうえ承認された臨床検査管理医制度 認定更新制度規程の臨床検査管理医更新単位数（発表・報告）について、一部で不必要に単位数が高く誤解を招く可能性があるため、更新者に不利のないよう配慮した単位数の改定案が提示され、承認された。

8. 2023 年度国際学会奨励賞候補者について（大西宏明 理事長、井上克枝 担当理事）

2022 年度の国際学会への参加・発表が対象の 2023 年度国際学会奨励賞について、国際委員会から 10 名の応募があり、審査を行い高評価の 2 名の受賞候補者が推薦され、承認された。

9. 2023 年度学会賞：功労賞・河合忠賞候補者について（大西宏明 理事長）

2023 年度功労賞：河合忠賞受賞候補者について、常任理事会で協議した結果、名誉会員の高木康氏が推薦され、承認された。

10. 2024 年度からの名誉会員候補者について（大西宏明 理事長）

2024 年からの名誉会員候補者の村上正巳氏（群馬大学）、通山薫氏（川崎医科大学）の資格要件が確認され、承認された。

11. 臨床検査専門医 専攻医のリクルートについて（大西宏明 理事長、田部陽子 ワークライフバランス委

員会 担当理事)

医学生、初期研修医などをリクルートするため、ワークライフバランス委員会と連携してリクルート企画、ターゲット設定、レジナビでの広報準備、関東医学部勉強会サークル、学会への参加、SNS 発信、ハンズオンセミナーと連携した企画立案などを活動内容とする組織の必要性について説明があり、広報委員会の下部組織として「臨床検査専門医の育成とリクルート WG」の設置について諮られ、承認された。

なお、WG のメンバーについては、今後検討予定である。

12. PDMA 情報についての提案について (大西宏明 理事長、古川泰司 理事、矢富 裕 理事)

PDMA 情報はメール配信設定により自動配信されるが、当学会に関係した内容があった場合、医療安全委員会が情報をピックアップして、保険診療委員会がフォローしたうえで配信内容をまとめ、会員、関連団体への注意喚起、情報提供を行う提案があり、承認された。

13. 日本医学会連合門田班臨床内科グループ受託研究の継続依頼について (大西宏明 理事長)

令和 4 年度日本医学会連合「厚生労働科研」門田班 臨床内科グループ研究を研究タイトル「COVID-19 パンデミックと臨床検査体制」として研究受託して 2023 年 3 月に終了して報告書を提出していたが、さらに、日本医学会連合門田班事務局より、研究期間 (令和 5 年 4 月 21 日から令和 6 年 3 月 31 日) 厚生労働行政推進調査事業費補助金 (新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた中長期的影響の調査研究—今後の保健・医療体制整備の観点から—」(日本医学会連合会長 門田守人班) 発足に伴い、継続して新型コロナウイルス感染症が与えた影響の調査研究の実施依頼があったことが報告され、当学会として、引き続き臨床検査室医療評価委員会に研究依頼したいと提案があり、承認された。

14. 学術著作権協会の文献提供サービスへの参加について (大西宏明 理事長)

学術著作権協会が文献サービスを開始するにあたり、当学会も参画する提案があり承認された。

古川泰司総務理事より、2023 年度、2024 年度の理事会と定時社員総会の予定が報告された。

【2023 年度理事会日程】

第 3 回理事会：2023 年 10 月 29 日 (日) 午後を予定

【2024 年度 理事会・定時社員総会日程】

第 1 回理事会および 2023 年度に係わる定時社員総会：2024 年 3 月 30 日 (土)

VI 閉会 (田部陽子 副理事長)

田部陽子副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

2023 年 7 月 27 日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

理 事 長 大 西 宏 明 印

副理事長 田 部 陽 子 印

監 事 諏 訪 部 章 印